

知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより

2010年12月

第36号



3. 空を旅する

本館1階閲覧室の壁面を飾る、此木三紅大(このきみくお)さん制作のレリーフ「知識は旅をする」、10点の作品を順番に紹介しています。

作：此木三紅大氏 松山庭園美術館(匝瑳市)館主

トピックス

▼歴史講座を開催しました

11月27日(土) 史学博士で明治大学講師の鈴木秀幸氏をお招きし、歴史講座「村落生活と和算 ―東総を中心に―」という演題で講話をいただきました。

＜特集を掲載しました＞

▼利用者アンケートを実施しました

10月27日(水)～11月9日(火)の2週間、来館された皆様に利用者アンケートをお願いしました。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

→＜結果を掲載しました！＞

▼展示コーナー資料紹介

「東部図書館ベストリーダー
1998. 11～2010. 9」

(展示期間10/21～1/20)

☆開館から2010年9月までの利用(貸出)回数の多かった本を紹介しています。

▼年末年始休館のお知らせ

12月27日(月)から1月4日(火)まで、休館します。

なお、休館中でも資料の返却ができますので、東部図書館正面入口左側にありますブックポストをご利用ください。



携帯電話サイトURL

ホームページURL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



国民読書年記念 平成22年度 歴史講座 報告

平成22年11月27日(土) 13:30～ 場所:3階 研修室

本年は国民読書年であり、各図書館でも様々な催しが行われてきました。千葉県立東部図書館では、明治大学講師で大原幽学記念館研究員の鈴木秀幸先生をお招きし、「村落生活と和算—東総を中心に—」という演題でご講演いただきました。(参加者数36名)



鈴木先生は千葉県鴨川市のご出身です。研究テーマは「日本における大学史」や「近代日本の地方教育文化史」ですが、地方教育文化史においては、主なフィールドワークの一つが東総地域ということもあり、今回の講演依頼についてご縁を感じるということでした。

講演ではまず最初に、村落生活と和算について理解を深めるために、スライドを見ながらご説明くださいました。歴史講座開催に至るまでの調整、スライド作成には、大原幽学記念館並びに学芸員の猪野さんが全面的にご協力くださいました。

先生が自分の研究テーマに出会うきっかけとなったのは、ある筆子中ふでこちゆう(寺子屋の門人たちが師匠の徳に感謝し建立した墓碑)の存在で、学びたいことがあるから学ぶ庶民と、教えたいことがあるから教える師匠との関係を知り、「これこそ教育の原点だ」と感じられたそうです。こうして寺子屋教育に関心を持ち、そこで教えられていた和算について調査研究するようになったことを、楽しいエピソードを交えてお話いただきました。



また、庶民教育がどのように発展していったのか。東総地域における寺子屋の開業数や教科の種類、寺子屋の師匠である宮負定雄や鈴木雅之らの功績についても詳しくご説明いただきました。そして、寺子屋で教えられていた和算がどのように普及していったのか、地域における和算の実態、村人たちが生活の自立と向上、治村のために和算を学び、修得しようとしたことについてお話いただきました。

地域社会の荒廃からの復興や地域民の生活向上のために寺子屋が発展し、そこで教え広められた和算は「まさしく地域民による地域のための学問・教育」であるということでした。

なお、鈴木先生の著書や東総関連の論文は東部図書館にも所蔵がございます。詳しくは県立図書館のホームページをご覧ください。カウンターにお問い合わせください。



名作映画鑑賞会のご案内

毎月第3土曜日に、名作映画鑑賞会を開催しています。(入場無料)

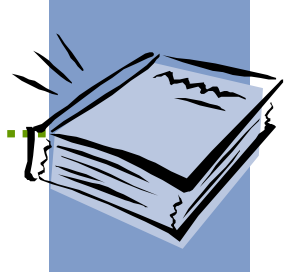
開場：午後1時15分～ 映画上映：午後1時30分～

場所：東部図書館3階 研修室

- ★ 12月18日(土) 『石の花』 監督:アレクサンドル・プトゥシコ / 主演:ウラジーミル・ドルージニコフ
- ★ 1月15日(土) 『ジャングル・ブック』 監督:ズルタン・コルダ / 主演:サプー
- ★ 2月19日(土) 『真珠湾攻撃』 監督:ジョン・フォード / 主演:ウォルター・ヒューストン



参考図書カフェ (8)



『イラスト・図説でよくわかる江戸の用語辞典

時代小説のお供に』

江戸人文研究会／編

善養寺 ススム／文・絵

廣済堂あかつき 2010

請求記号[2105/505(参考)]



東部図書館には、多くの参考図書があります。参考図書というと難しく堅苦しい資料を思い浮かべる方も多いかもかもしれませんが、ユニークな資料もたくさんあります。

今回紹介するのは、江戸の世の中と暮らしに関わることが何でもわかる用語辞典『イラスト・図説でよくわかる江戸の用語辞典 時代小説のお供に』です。

歴女、歴玩、坂本龍馬……。歴史ブームと言われていますが、時代小説や時代劇に興味のある人はもともと多かったのではないのでしょうか。「あれ？」と思ったことを調べれば、より一層楽しめます。

この本では、江戸の商人・貸本屋善右衛門さんが案内役となって、日本橋から浅草での庶民の説を中心にわかりやすく解説してくれます。それぞれの項目が五十音順に並べてあるので、知りたい言葉だけをすぐに探すことができます。また、暦や時刻、髪型や帯、頭巾といった区別の難しいものは図やコラムで更に詳しく説明されています。

例えば「江戸の時刻と月読^{つくよみ}」というコラムでは、「当時の人は月を見上げれば、今日が幾日かわかったもんでございます。これを「月読」と申します。なにしろ「ひと月」は月の満ち欠けで数えておりましたので。ですんで、お話の中に月の名前が出てきますのは、日付と同じ意味があります。そして、満月を見ますと、「月も半ばですなあ」と感慨深く思ったものです。」というように書かれています。

関連一般図書



『数字でわかるお江戸の暮らし』

山本 博文／監修 カンゼン 2010

請求記号[21361/90]

初鰹は20万円、武士は週休5日制、大奥の維持費は200億円…。江戸時代の社会を文献や史料に基づきながら、「数字」をキーワードに概観。興味あふれる数々の事柄を、現在の貨幣価値に直して提示しています。

『江戸川柳の魅力 滑稽と風刺の文芸を味わう』

吉澤 靖／著 真珠書院 2008

請求記号[91145/43]

“寝て居ても団扇のうごく親心” “これ小判たった一晚居てくれろ”
風刺と滑稽と笑いを包み込んで、庶民の生活と哀感と百万都市江戸の姿を映し出す古川柳。その700句以上を紹介した江戸川柳の読解、鑑賞のための入門書です。

ふるさと九十九里のために

～九十九里アートミュージアム 望月定子美術館～

九十九里有料道路、通称「波乗り道路」片貝インターから車で1分、潮騒の音が間近に響くところに『望月定子美術館』があります。

青い矢印の表示板に従い、細い道を入ると民家に挟まれた中に3階建てのビルが姿を現しました。



館長さんの穏やかな笑顔に導かれて玄関を入ると、正面には百合の花の絵と備前焼の壺が置かれ目を引きました。ここを挟んで右は様々な芸術家が利用できるアートスペースで、左側が美術館の主役、望月定子さんの常設展示スペースです。天井の高いゆったりとしたスペースにスケールの大きな力強い作品が定期的に入れ替えられて展示されています。



定子さんは九十九里で生まれ育ちました。150点余りの作品を残して、2年前に89歳でこの世を去ってしまいましたが、特筆すべきことは、彼女が絵筆を握り創作を始めたのが63歳であるということです。

一般の人が引退を考える年齢で、なぜ油絵を描くようになったのか理由を尋ねると、美術館入口左の壁面に「絵を描く動機」と題し、彼女自身の言葉と文字で綴ったものが掲げてありました。

兄の死の寂しさを紛らわすために、との思いから描き始めたそうですが、やるからには徹底してやろう、と東金の斎藤良夫氏に師事し本格的に油絵を始めると、展覧会

での入賞はもちろんのこと、幾度となくマスコミに取り上げられ注目を浴びました。

「私には描きたいことがたくさんあるのに時間がない」とひたすら創作に打ち込みました。2度のガンを克服し、現在美術館のアートカフェとなっている場所で九十九里浜を眺めながら制作し、来館者と触れ合っていたそうです。

アートスペースは12月から3月までは、ミュージアムショップとして作品の展示をします。来年の4月には旭市在住の版画家土屋金司氏の版画展が予定されています。



九十九里の海岸線をドライブがてら足をのぼし、覗いてみてはいかがでしょうか。きっと「私もまだできる。」と勇気と力をもらおうことでしょう。

- ◆所在地 山武郡九十九里町片貝6928-55 (Tel 0475-76-4008)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 水曜日 (祝日の場合はその翌日) 年末年始
- ◆入館料

	個人	団体 (11名～)
一般・大学, 高校生	300円	250円
中学生以下	無	料

- 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

みなさまのご利用ありがとうございます。

開館(平成10年11月)以来の入館者数が、先月(11月20日)延べ250万人を超えました。来年もよろしくお申し込み申し上げます。どうぞ良い年をお迎えください。

編集・発行：千葉県立東部図書館
〒289-2521

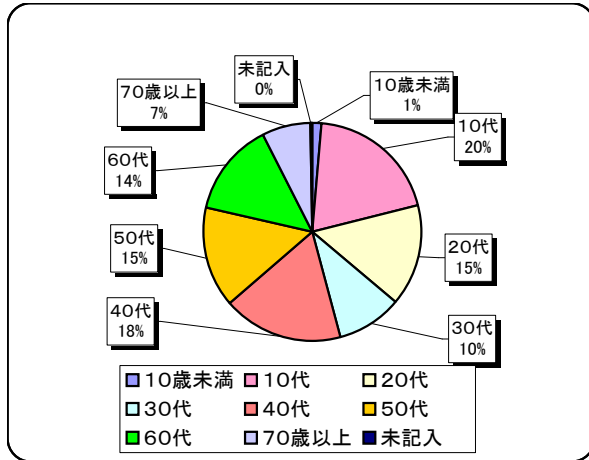
千葉県旭市ハの349
TEL0479-62-7070

URL：http://www.library.pref.chiba.lg.jp/

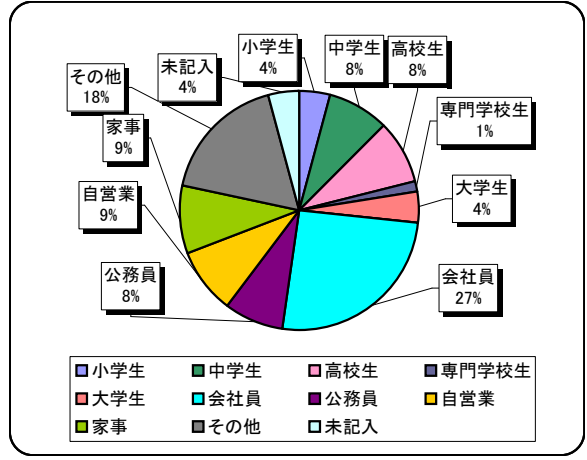
東部図書館 利用者アンケート集計結果

平成22年10月27日～11月9日の2週間実施しましたアンケート調査の結果をご報告します。
アンケート回収枚数は285枚で回収率は67%でした。アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

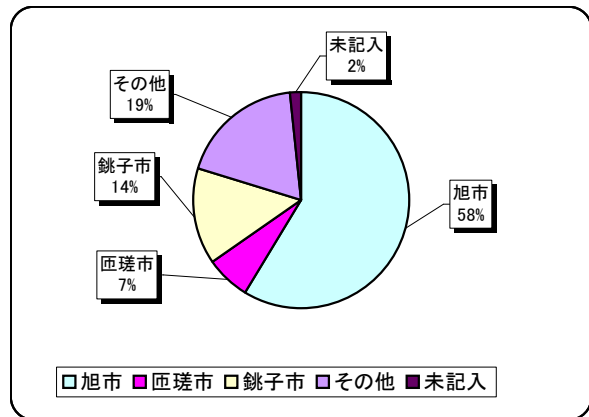
○年齢別



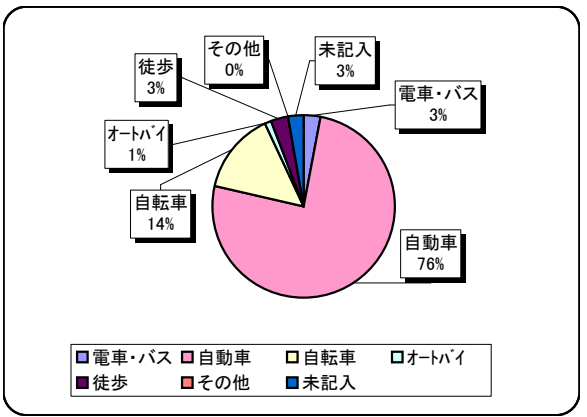
○職業



○住所



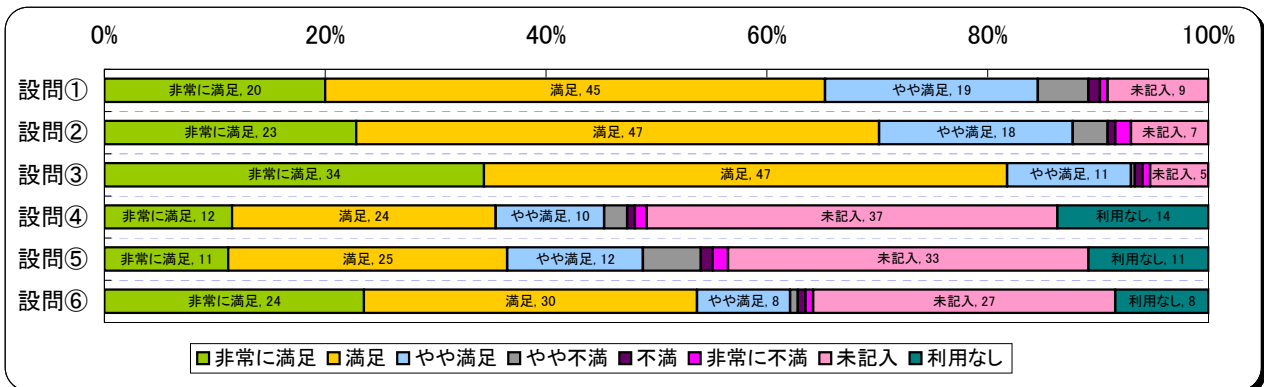
○交通手段



回答者の2割強が60歳以上で、続いて10代、40代、50代、20代の順になっています。(10代、20代は祝休日の利用が圧倒的に多くなっています)
職業については、「会社員」の割合が昨年とほぼ同じ27%、次いでその他(無職等)18%になっています。住所については、「旭市」が半数以上の約6割を占め、他市、他町、他市の地域では東庄町、香取市在住の利用者割合が増加しています。

共通設問

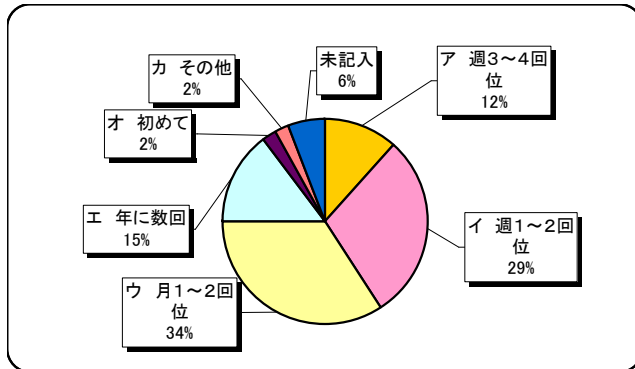
- ①お探しの本(資料)は利用できましたか。
- ②館内案内図や書架の表示、カウンターの表示などわかりやすいですか。
- ③職員への対応はいかがですか。
- ④他の図書館からの本の取り寄せの期間や手続きはいかがですか。
- ⑤当館のコンピュータの使い勝手はいかがですか。
- ⑥調べものや探している本のことで、職員に相談したときの回答は的確でしたか。



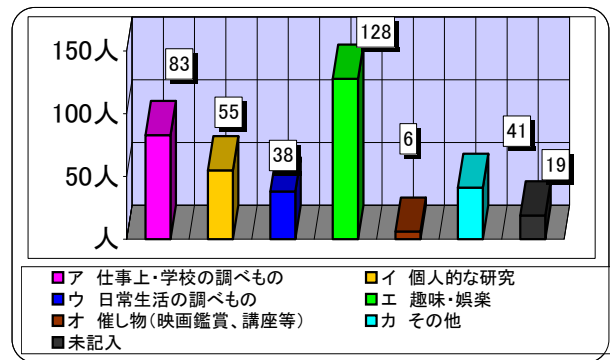
サービスの満足度については、①から③については「非常に満足」、「満足」又は「やや満足」と回答の方が約8割以上と高い評価をいただきました。
④から⑥については、利用なし及び未記入回答の方が昨年同様多く、いずれも回答者全体の3分の1以上を占めています。

東部図書館設問

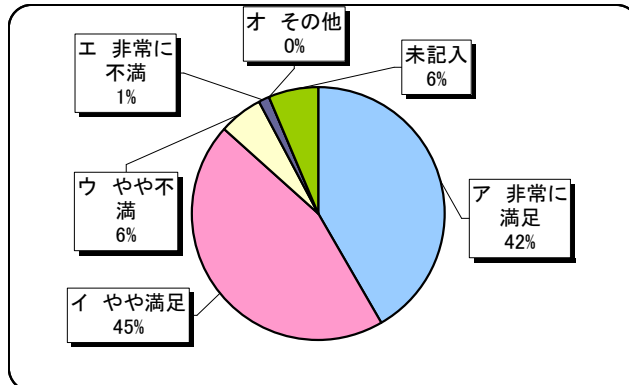
○当館にはどれくらい来館されますか。



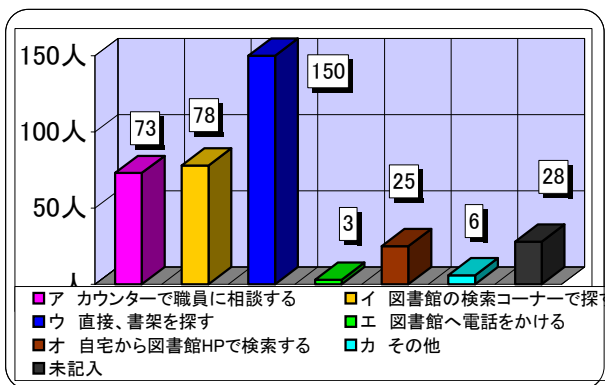
○ご利用の目的を教えてください。(複数回答可)



○目的は果たせていますか。



○図書館資料は主にどのようにして探しますか。(複数回答可)

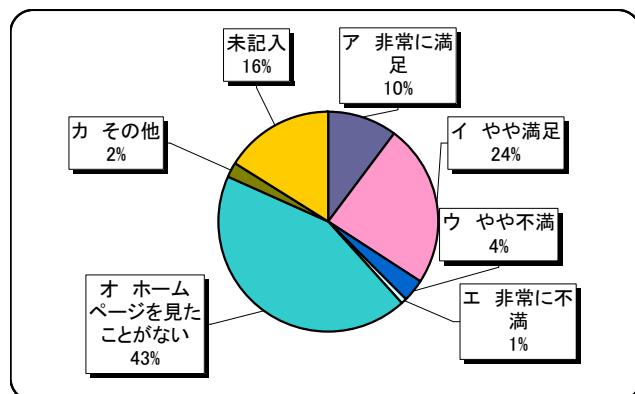


・来館頻度は、月1回以上利用される方が75%で、昨年度(74%)とほぼ同じ割合を示しています。

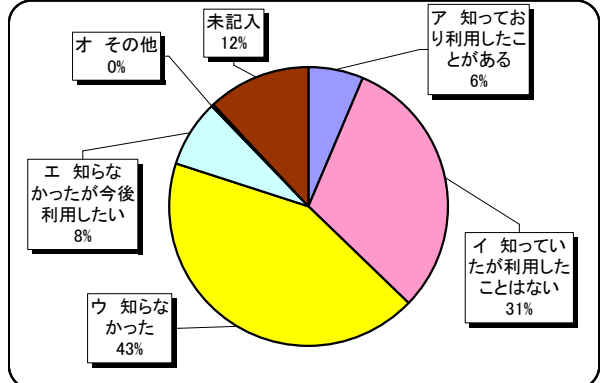
・来館目的は、「趣味・娯楽」(34%)、「工作上・学校の調べ物」(22%)が多く、「工作上・学校の調べ物」の割合は昨年度(19.2%)と比べて増加しています。また、86%の方に「非常に満足」、「やや満足」といった回答をいただきました。

・資料の探し方については、「直接書架を探す」と回答された方が多く、「カウンターで職員に相談する」(回答73件20%)が昨年度(13%)に比べて増加しています。

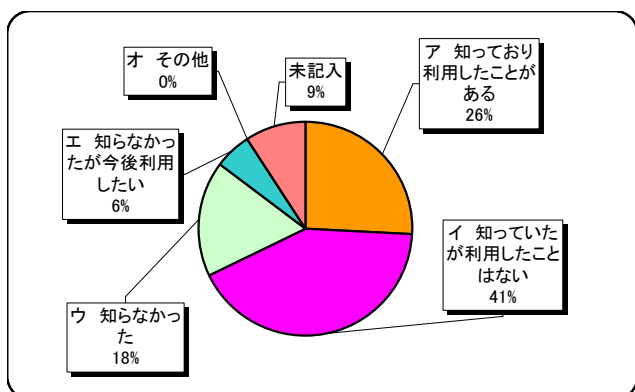
○『県立図書館HP』をご覧になった印象をお聞かせください。



○インターネットから図書の予約や電子メールによる調査相談ができることを知っていますか。



○他の図書館の本を県立図書館に取り寄せたり、県立図書館の本をお近くの図書館に取り寄せたりして利用できることを知っていますか。



・「図書館HPを見たことがない」、「インターネットから図書の予約や電子メールによる調査相談ができることを知らなかった」、「他の図書館の本を取り寄せたりして利用できるサービスを知らなかった」と回答された方が4割を超えていました。HPをはじめとする様々な図書館サービスについてもっと知って利用していただけるよう広報に努めてまいります。

アンケートにご協力いただき

ありがとうございました